

# Editor's eye

・特集・

## 乾癬は奥深い

編集担当 山本 俊幸

今月号のテーマは乾癬である。乾癬に関する講演会や書籍も多いので、いくらか食傷気味の読者もいるかもしれないが、たくさんの興味深い症例報告や総説が並んだ。

展望「乾癬に特有なKöbner現象の病態に迫る」では、創傷を起点とする表皮細胞からのCCL20をはじめとするさまざまなサイトカイン産生と、シグナル伝達経路の活性化を、古江和久先生に新しい観点から解説いただいた。昔、飯塚 一先生が乾癬では創傷治癒がよいことを書かれていたが、それを思い出しながら拝読した。Topics「乾癬性関節炎の最近のトピックス」では病態、治療の最近の知見を紹介した。また、統計では妊婦の乾癬症例を複数取り上げ、治療法についても水谷陽子先生に概説していただいた。海外、本邦の文献でも、妊婦の乾癬(尋常性、膿疱性)治療に対するガイドラインも出ているので、必要に応じて参照されたい。

症例報告は、感染症との関連(齲歯、後腹膜膿瘍)、まれな合併症(SLE、黒色表皮腫、血小板減少性紫斑病、ダウン症)、治療薬との関連が並んでいる。SLEと乾癬はその病態も似ており、乾癬に合併する膠原病の中ではSLEがもっとも多い。どちらも活性化されたplasmacytoid dendritic cellからtoll-like receptorを介して産生されるI型インターフェロンが重要な役割を果たす。臨床像も、SLE患者に乾癬様皮疹がみられたり、subacute cutaneous LEにはpsoriasiform typeもある。逆に、乾癬に使用したTNF阻害薬で、IFN- $\alpha$ にバランスが傾くためループス様皮疹がみられることもparadoxical reactionの症状に含まれている。しかし、みたくはきれいな蝶形紅斑ではなく顔に出た乾癬と考えてもよい症例もまれではない。今回の掲載症例もどちらに考えるかむずかしく興味深い。治療関連では、併存症(糖尿病)に対して抗IL-17抗体製剤が有効であった症例や、逆に生物学的製剤の副反応(顔面浮腫や痒疹)が掲載されている。アプレミラストにより既存の乾癬がかえって悪化する症例はどれくらいあるのか、今後の報告も待ちたい。イミキモドの局所投与によって乾癬・乾癬様皮疹が誘発されることがあるが、既存の乾癬が悪化する場合と、まったく新規(de novo)に乾癬が出てくることが報告されている。Superimposed linear psoriasisも、長期間経過を追う中で皮疹が顕性化してきた大変貴重な症例で、多くのことが学べる論文である。

折しも、今月号が発行される9月は日本乾癬学会学術大会が開催される。奥深いこの疾患に、どっぷりと浸かってみてはいかがだろうか。